

よりよい世界を目指して

小 六

これは、私が、とても仲のよかった男の子との出来事です。

私が三年生のとき、クラスメイトに耳の不自由な子がいました。私は、今まで耳の不自由な子と一緒にクラスになったことがなかったのです。正直な気持ち、すごくおどろいたし、耳が不自由でいつも大変そうだなあと思っていました。でもAさんは、笑顔がとても素敵で、私はその笑顔が大好きでした。

三年生になって数日後、私は、友達からこう言われました。

「Aさんは耳が不自由で、言葉も上手く話せないんだよ。」

そのことを聞いて私が、

「じゃあ、どうやって会話をするの。」

と友達に聞くと、

「Aさんは手話ができるから、手話か、手話が分からない子はノートや紙に文字を書いてあげるんだよ。」

と教えてくれました。その友達は手話が得意でした。すごいなあと思いつつ教室をうろうろしていると、手話のやり方がかいてあるポスターを見つけました。そのポスターには五十音と手話の形がかいてあって、とても見やすかったです。私は、手話を覚えてAさんと友達になろうと思いました。

私はそれから毎日、Aさんと友達になつて仲よくしたいという思いを胸に、必死で手話を覚えめました。分からない部分は友達に教わって覚ええました。そして

数日後、やつと手話を覚えることができ
ました。そのときは、Aさんと友達にな
れるといううれしさで、胸がいつぱいに
なりました。

ある日、私が友達と一緒にAさんに手
話で、

「友達になろう。」

と言うと、Aさんは素敵な笑顔ですぐに
手話で、

「いいよ。」

と、言ってくれました。私の手話がAさ
んに通じて友達になれて、とてもうれし
かったです。それから私は、Aさんに手
話で今まで知りたかったことを聞いた
り、楽しかったこと、うれしかったこと
などをたくさん話したりしました。でも、
Aさんは手話が上手でも言葉を上手く
話せないため、人とのコミュニケーション

ンがなかなかとれません。そのため、男
の子の集団にいじめられていて、たくさ
んのいやな思いをしていました。私はあ
んなに笑顔が素敵でやさしくて、元気で
明るいよい子なのに、ひどいなあと、A
さんをいじめる男の子たちに腹を立て
ました。時にはある男の子が、

「手話でバカってどうやるの。」

と、聞いてくることもありました。私は
少し悲しくなりました。でも私は、

「どうせ、Aさんをいじめるんでしょ。

だから教えない。」

と、言いました。それでもその男の子た
ちは、自分たちで手話を覚え、Aさんを
いじめていました。私はそんな人たちが
許せず、すぐAさんのそばに行って、
「どうしたの。」

と聞きました。すると、

「Bさんがバカとか消えろって言った……。」

と泣きながら手話で答えてくれました。

私は、Bさんに、

「なんでそんなひどいことを言うの。みんな同じ命を持っている同じ人間でしょう。それに手話は、人の心を傷つけるものではないよ。」

と注意しました。するとBさんは、

「ごめんって伝えて……。」

と言ったので、私はAさんに、

「ごめんって言ってたよ。」

と教えました。そのとき、私はAさんのことを分かってもらえてよかったなと思いました。そしてAさんに素敵な笑顔が戻りました。とてもうれしかったです。

世界には、様々な障害で苦しんでいる人が多数います。私は、そんな

思いをする人がいる世界はいやなので、だれもがこの世界で平等に、そして幸せに暮らせるような未来を目指したいです。きっと、障害のある人々もそう願っているでしょう。私は、みんなが幸せに平等に暮らせる世界を目指して、小さなことからでも、どんどんがんばっていきたいです。私はそんな世界が実現することを願います。